

令和7年度  
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

中間支援ギャザリング資料（中間支援振り返りシート）

活動テーマ

『 クロスオーバー 』

活動団体の活動地域：新潟

活動団体名：NIIGATA MUSIC LABORATORY

中間支援主体名：社会事業化団体SHE

# 中間支援主体としての獲得目標と達成状況

## ■ 中間支援主体としての獲得目標 【R7年度当初目標】

活動団体が目指しているものの言語化を丁寧に行い、計画を共にたて、そこに向かうために不足しているリソースを客観的にとらえ、中間支援として補いつつ、人的リソースが不足する場合は外部人材を引き入れ活動を加速させていく。また、活動に人を巻き込んでいく為に必要な場づくりや見える化など、多様なかかわり方で活動団体を支援していく。

このように、多様な人材が中間支援主体の中にいるからこそその活動全体を通じた支援により、活動団体にノウハウを落としこみながらその周囲の人材に中間支援視点を持つ人を育み、中間支援主体がいなくても活動団体とその周囲の人材で活動が継続していく体制を構築していく。それらを通し、団体としては人材育成のノウハウ獲得を目指す。

## ■ 中間支援主体としての獲得目標に対する振り返り（目標達成状況）

活動団体が目指しているものの言語化は、パンフレット作製を通して丁寧に行うことができた。パンフレット制作過程で、ライターやデザイナー等の外部人材にも関わってもらうことで客観的に自分達の行っている活動をとらえることができた。また、活動団体が若者のインターンや活動支援を行っており、その活動を加速させていく為にマイプロジェクトとの接点もつくり、若手の人材流入や交流が生まれ、それが活動団体を支える人材になってきている。こうした活動団体への多面的な支援と人材の接点づくりにより、活動団体が1人立ちしていける体制が構築されてきている。

また、今後の経済的な継続性の部分でヒントを得るために、各先進地への視察や他団体との交流を通して、活動団体として向かう先の輪郭を明確にする支援も行っている。

というところで、中間支援主体として、活動団体を客観的にとらえること、それにより多面的な支援を行うことはできている。人材育成のノウハウについては現場にてある程度できている部分もあるが、まだまだノウハウと呼ぶには整理がし切れていない状態である。

# 中間支援機能ごとの振り返り

チェンジエージェント機能		R7獲得目標（R7年度当初設定） 高めたい機能（◎/○）とその理由		現状の自己評価（R7年度末時点） 自己評価（◎/○/▲）とその理由	
変革促進	物事を整理する	○	活動団体からの提案に対しては問いを立てて、全体で考え共有したり、整理する間合いを意識。	◎	活動団体の苦手な部分を補っていた。
	意味づける			◎	外の人との接点をつくる為に、意味づけを行った。
	癒しとなる			○	やることに追われ、癒し的な時間は作れなかった。垣根のない心理的安全性◎
	見通しをつける			○	明確なゴールが決まっていない為、見通しはつけづらいところがあった。
プロセス支援	話を聞く	○	巻き込みたいステークホルダーについてアイデア出しから、事業のゲスト招待をし、場を作る。	◎	必要なタイミングで声をかけて、話を聞いた。
	場を開く			◎	場を開く際の支援を常に行っている。
	喝を入れる			◎	必要なタイミングで、必要なことをしっかりと伝えている。
	現在地を確認する			◎	活動団体の状態を客観的に認知するための必要な会話をを行った。
資源連結	新しい人を入れる	○	見える化にあたっての人材選考を一緒に考え、打ち合わせの場面も伴走。	◎	新しい人材が流入する為の資源連結を行った。
	事例を紹介する			○	必要なタイミングで情報のシェアを行った。
	引き出す			◎	本質的な問いにより、活動団体の考えている根本の部分に光を当てるお手伝いできた。
	拡散する			○	パンフレット作成などを通して、ある程度は拡散に寄与できたか。
問題解決提示	文字や図に落とす			◎	会議は常に文字に落とし、整理し続けている。
	問いを立てる			◎	本質的な問いを必要なタイミングで投げかけ、共に考えている。
	会議を進行する	○	事業の目的、状態目標、全体計画の中での位置付けなど確認しつつ、クリエイティブを引き出す。	◎	会議の場の進行を行い、活動団体が主体的に考えられるサポートを行った。
	落としどころを探る			◎	本質的な会話の中で明確な答えが見つからない場合も、ひとまずの着地点を探った。
その他	※必要に応じて追加				

# 今後の中間支援主体のありたい姿

## ■ 中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献 【R7年度当初目標】

中間支援主体としては、本事業終了後もepoとの良好な関係を継続しつつ、個々の活動において今回の学びを活かして地域において活動していく予定である。活動エリアとしては新潟市とその周辺エリアを想定している。様々なニーズが地域内にあり、既に活動をスタートしていたり、これから取り組む為の協力の求めが既に来ている。それらが、直接的・間接的に地域循環共生圏づくりに関係していくと考えている。具体的には、地域内ネットワーク形成の場づくり、地域プラットフォーム構築、地域コミュニティ運営、など、そうした場面において今回の事業のノウハウを活かしていく。

## ■ 地域づくりに貢献していくために、今後、どうなりたいか

目指す姿	目標達成に向けた、次年度の行動	チェンジエージェント機能での分類
地域づくりにおける場の継続性の為に、つなぐ機能と稼ぐ機能を両立させていく。	・稼ぐ機能を持つために、自分達のリソースの整理と、その見える化を行う。必要に応じて外部人材との連携も考えていく。	その他
・地域循環共生圏のノウハウ、ネットワークを活かしていく	・地域循環というテーマに共感を感じることができる団体・人を巻き込んでいく。	その他

## ■ 地域づくりに貢献していくために、外部地域や関係者と連携や協力したいこと

- ・外部のエリアにおいて、経済的に自立しながら場を開き続けている成功事例や失敗事例などを参考にできるとありがたい。（似たエリアにおいて）
- ・金融、経済において欠如しがちな、地域循環の文脈を取り入れた社会性の獲得に連携・協力したい。